

わたしたちの町

人口(男)…4,698人  
(女)…5,040人  
合計…9,738人  
2月中の転入…8人  
転出…19人  
世帯数…2,304世帯

(2月末日住民登録調べ)

広報

あいかわ

昭和56年3月17日 第274号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 018678-2111

広報は、毎月10日に発行を予定しています。中学校生徒会の委託により、各家庭に配布されますので、届かない場合は役場総務課にお知らせください。

広報へのニュースの提供や意見等もおまちしています。

第2回体力づくり

手を振る子供——。歓声を上げる子供——。はじめてスキーをいたと言う人——。さわやかな汗をうかべてみんなにも楽しそうです。

空は、久しぶりの青空。

三月一日に大野台ハイランドで開かれた第二回県民歩くスキーの集いは色とりどりのスキー服姿であふれました。

この「集い」は「雪と親しもう!」を相言葉に、県、県教育委員会、秋田フィンランド協会、大野台開発推進協議会、四者が主催。

昨年の第一回集いは四百人をこえる参加者でございました。今年は、秋田市など遠方からの参加者をはじめ、八百人が申し込み。大会関係者、父兄など千人近くの人数にふくれ上りました。

コースは、赤松や杉のあい間をぬう林間コースや、広々とした平地、登り下り、水辺のコースと変化にとんでおり、参加者全員が大野台の大自然を満喫。

「うさぎさんになつたような気持ちです——。」と、初めてのスキーリミテッド者も、歩くスキーのどりこになつた様子です。

指導陣は、国体選手クラスのベテランがズラリ。チビッ子に、基本的な技術とともに大きな夢をあたえてくれました。

主催者側では、参加者全員にトントン汁と記念タオル、記念バッヂをプレゼント。歩くスキーを県民スポーツとして広めようと、誓い合っています。

「うさぎさんになつたような気持ちです——。」と、初めてのスキーリミテッド者も、歩くスキーのどりこになつた様子です。

指導陣は、国体選手クラスのベテランがズラリ。チビッ子に、基本的な技術とともに大きな夢をあたえてくれました。

主催者側では、参加者全員にトントン汁と記念タオル、記念バッヂをプレゼント。歩くスキーを県民スポーツとして広めようと、誓い合っています。

県民歩くスキーの集い

気長に 根気強く 健康づくりの輪を広げよう

健康大学で第三期閉講式

五十五年度健康大学の最終講座は二十六日、役場会議室で開かれました。各分野で、健康づくりの中心になって活動した五名が体験発表。五十三名に終了証書と記念品が贈られました。

体験発表は地域から(伊東和子さん・新田目)職場から(工藤久男さん・駅前)されました。

昭子さん・杉山田鈴木が遅い例が目立つ」と検診の活動の中から、成果と会は、多数ご参加ください。

健康大学は五十六年度も引き続いて開かれます。第ヨシノさん・合川中学校)一回講座は六月開設の予定の活動の中から、成果と会は、多数ご参加ください。

今後の課題が報告され、いよいよ健康大学の卒業論文、地道な呼びかけによつて、健康づくりが着実に広がっています。

わば健康大学の卒業論文、地道な呼びかけによつて、健康づくりが着実に広がっています。

しかし、中には「もっと積極的に呼びかけば、発病を防げたかもしれない」。

「家族の理解があつたら」。といった例も報告され、健康の輪を広げる決意を新たにしました。

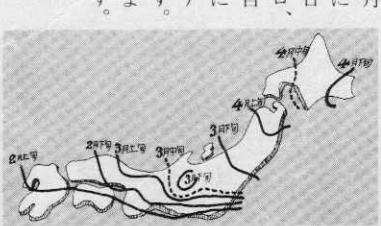
特に「皆検診」「体力づくり」「食生活の改善」の必要を、各発表者が力説。

「自分のために自分の健康を自分で守る」という考えを基本にしながら、行政、地域、職場が一体となつてさらに強力な健康づくり運動を誓い合いました。

助言者の各病院長からは、「健康づくりは百年先さに、実を結ぶ仕事。自信を持つて根気強くがんばってほしい」と激励のあいさつ。また最近の病気では「結核が

三十四名が卒業 閉講式 消費生活講座も

彼岸



二十一日は、彼岸の中日——。

小阿仁地方には、今年も「マト火」がともされることでしょう。マト火の起源は明らかではありませんが、鹿角地方では、お墓で燃やす火を「マトイ火」と呼んだと言います。祖先の靈の迎え火、送り火が始まりのようです。

また、他地方では「百万偏数珠(じゆず)」などと呼ばれる「送り念仏」が伝えられている地区もあります。

大きな輪の数珠を手から手へと回すこの行事は、「ふるさとの助け合いの心を見るような気がします。

ところで、春はどのくらいのスピードでやつてくるのでしょうか。

等温線から割り出しますと、二月上旬から三月中旬にかけて西日本では一日約十キロメートルですが、東日本に入ると四分の一にスピードダウンします。

これが三月上旬以降になると一日約二十キロ、時速約八百メートルにスピードアップします。

この講座は、合川町消費者会議、県生活センター、町の三者が共催。ムダな買物に商品知識を「」と開かれました。終講座と閉講式が開かれました。

この講座は、合川町消費者会議、県生活センター、町の三者が共催。ムダな買物に商品知識を「」と開かれました。

「賢い消費者になるための知識がわかりやすく解説され、とても役に立つた。」「知らないままに使っていた商品に危険なものが多くびっくりした」などの感想が聞かれました。

閉講式では三十四人に終了証を贈呈。「科学的な知識がわかりやすく解説され、とても役に立つた。」「知らないままに使っていた商品に危険なものが多くびっくりした」などの感想が聞かれました。

この講座は、合川町消費者会議、県生活センター、町の三者が共催。ムダな買物に商品知識を「」と開かれました。

「賢い消費者になるための知識がわかりやすく解説され、とても役に立つた。」「知らないままに使っていた商品に危険なものが多くびっくりした」などの感想が聞かれました。

町長日記から

東洋精箔の進出が決まつたあと、県と一緒にになった。三年間、自分の生み立派な卒業式だったからだ。命を賭して頑張らなければならぬ。その立派な卒業式をする騒しさはばならない。(義)

忘れることが出来ない母校の限りない愛がそうさせたのだ。就職を逆転させるために身みられない立派な卒業式だったからだ。命を賭して頑張らなければならぬ。その立派な卒業式をする騒しさはばならない。(義)

ふるさと歳時記





# わが家のわたしの宝もの

「ツツジの根、松の根、カヤ株などで馬耕では歯がたちません。朝の3時から夜の9時まで、ひと鋤、ひと鋤、汗を流した苦労は並たいていのものではありませんでした。」

正隆さんの宝物は、入植当時から父の豊さんと母のフサさんが使っていた2丁の鋤です。苦労と汗ですりへつた平鋤と四本鋤は、ケースに入れられ昨年の町産業文化祭にも展示されました。

「父は、お人よしでした。芯の強い人でした。生きる」ということについての強い気持ちが、私たちの生活をここまで引き上げたのだと思っています。」

昭和23年に父が大野台に入植。正隆さんが二ツ井町で木材関係の仕事を支えていましたが、当時、小豆相場の高値が続き開拓地に小豆を植えて、どうにか生計を立て耕作地を広げていくことができるようになりました。昭和27年、耕作地が2haほどで正隆さんが入植。翌28年までに耕作地を7haに広げました。当時、父と共に鋤を振るつた思い出が、2丁の鋤に焼きついているようです。

昭和29年頃から、じゃがいもを植えて東京市場に出荷しました。やつと軌道に乗った時に、同じ地域から不良品が混じり、出荷停止になりました。秋田県の農民は一般に、販路を切り拓く意欲が少ないです。

昭和33年に酪農を導入。まもなく、父の豊さんが亡くなりました。「1かんづつ上大野駅前まで背負って出荷したものでした。」

その後の苦難と曲折を乗りこえて、現在では成牛20頭、育成牛8頭を飼育。高度な技術が高く評価されています。経営は息子さん夫婦に譲り、「趣味の農作業」に励みながら、正隆さんは「弥栄の歴史をまとめたい」と意欲を燃やしています。



弥栄  
向井正隆さん

## すりへつた平鋤・ 四本鋤

くわ  
くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ

くわ